

国内 海外

グローバルボランティア

2019-2020年度活動報告



RISING
CHIBA UNIVERSITY

skipwise

※本PDFは報告書一部を抜
粋・変更したものです。

Contents

	3	グローバルボランティアとは
2019年度(春)活動報告	4	海外 フィリピン NPO法人セブンスピリット
	5	ウガンダ 特定非営利活動法人 ICYE ジャパン
	6	国内 フェアトレードちば NPO法人HALOHALO
各NPO団体の概要と活動内容	8	CIEE Japan / good!
	9	ICYE / NICE
世界地図で見るグローバルボランティア	10	
過去の活動報告	12	海外 2017年度 オーストラリア CIEE 2018年度 オーストラリア CIEE
	13	2018年度 モザンビーク NICE 2019年度 ドイツ NICE
	14	2019年度 スイス NICE 2019年度 モルドバ NICE
	15	2019年度 ウガンダ ICYE ジャパン 国内 2019年度 成田国際空港 成田国際空港振興協会
活動先で出会った世界の衣食住	16	
アフターストーリー	18	2015年度 フィリピン・日本
	19	2014年度 ジョージア
	20	2015-2016年度 千葉・東京
	21	2011-2015年度 スリランカ
座談会	22	
編集後記		



グローバルボランティアとは？

「グローバルボランティア」は、普遍教育の教養展開科目「キャリアを育てる」の一科目で、全学の学生に開かれている。国内外のNPO/NGO、施設、国際機関、フィールド等におけるボランティア活動に従事し、「体験から学ぶ」機会を提供している。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外プログラムはすべて中止となってしまったが、国内から「グローバル」を考えることのできる4つのプログラムを設定した。「ボランティアとは、社会経験と社会貢献の交換である～目指せ同時双方向～」を標語とし、2021年1月現在、31名の学生が活動に取り組んでいる。

授業のねらいは、グローバル社会における課題を発見し、多様な視点から現実社会の理解を深め、その課題と向き合っていくために必要とされる考え方、幅広い教養、実践的な知識を身に着けることである。したがって、ボランティア活動の前に目的意識を高める事前学習の受講を必須としており、活動後も、活動から得た経験知や実践知を再び理論的知識と結びつけたり、再構築したりしながら、自らのキャリアに繋げていくための振り返り（事後学習）を行っていく。さらに、経験を言語化し、他者へ伝える力を育てるための報告書の執筆についても単位修得の条件となる。

これまでの受講学生は、ボランティアとは「自分のできること」をするだけに留まらず、「自分のできることを広げる」ことであり、「成果」よりはむしろ「プロセス」を重視した活動であることを発見した。活動は、今まで知らなかった社会を知り、周囲の人々から大きな刺激を受け成長するための「通過点」になると同時に、自分自身が周囲に対して「インフルエンサー」となる機会にもなる。活動後の学生の歩みは一様ではない。自分の知識や技術の不足を痛感し、自分の専門性について強く意識しながら今後の勉強につなげていこうとする学生もいれば、自分の適性や問題意識の根幹に気がつき、進路を変える学生もいる。

本授業の受講を通し、グローバル社会において自らが取り組むべき課題を定め、自分なりの取り組み方を模索し、今後も向き合っていけるよう、思考し、試行し続ける力をぜひ身につけてほしい。経験を「キャリア」に結びつけるのも、単なる「思い出」として終わらせてしまうのも、自分次第である。

授業のながれ

受講ガイダンス

ボランティア説明会

事前学習

履修必須 ⇒ 1単位

ボランティア活動
50時間程度

+

事後学習

事後学習後、活動報告書の提出 ⇒ 2単位



団体概要と主な活動内容

CIEEは1947年にアメリカで設立された非営利法人です。学生、社会人、教員を対象とした様々な国際交流プログラムを開発・運営しています。

日本代表部は1965年東京に開設されて以来、日本の国際交流の草分けとして様々な国際交流プログラムを運営し、これまでに7万人が参加しています。CIEEの海外体験プログラムには、大学生を中心とした海外ボランティア（2020年夏はバーチャルキャンプ）、短大や大学の委託を受け企画・運営している短期海外研修（2021年春はオンライン留学）などがあります。

また、1981年以降米国Educational Testing Service (ETS) の委託を受け、TOEFL® テスト日本事務局としてTOEFL® テスト広報活動、TOEFL ITP® テストの運営、Criterion® をはじめとするETS公式プロダクトの普及促進活動を行っています。

CIEE日本代表部は2018年9月から「一般社団法人CIEE国際教育交換協議会」となりました。英語表記は「CIEE Japan」です。



*現在、プログラムの運行を休止しています。

メッセージ

こんにちは。新型コロナウイルス感染症の影響により、海外渡航の計画が延期・中止となった方もいらっしゃるかと思います。

こんな状況でも出来る事はあります。海外に行った先輩から、自分の国の事を聞かれて答えられず、事前にもっと日本の事を知っておくべきだったという話をよく耳にします。

例えば、自分の生まれ育った地域や大学のある千葉県について調べてみると、改めて知ることは沢山あると思います。その知識を英語でも語れるように、ノートに英訳文を書き、文章を何度も声に出してスラスラ話せるようにしてみましょう。その経験は海外で活動する際に役に立つはずですよ。

この状況が一日でも早く終息に向かい、みなさんの海外での活動を楽しみにしています。

キッカケづくりのボランティア

特定非営利活動法人

Good!

the Global Organization Of Dreamers!
since 2001

団体概要と主な活動内容

NPO法人グッドは、ワークキャンプという合宿型のボランティアを通じて、すべての若者のきっかけ作りを応援している団体です。スリランカの農村でホームステイをしながら井戸を掘ったり、タイの山岳少数民族の村で道路づくりをしたり、日本の田舎で農業のお手伝いをしたりしています。

課題のある地域に足を運び、現地のために働くことや、そこに暮らす人々と交流することを通して、地域の実態の姿やその場所が抱える社会問題を肌で感じる事ができます。

活動には、大学生を中心に高校生～社会人まで、全国各地から幅広い年齢層の参加者が集まっています。学外の人たちとの関わりを通して、視野が広がり、研究の新しい視点を得ることができるはずです。



メッセージ

今はオンラインの生活が当たり前になってしまいましたが、日常を飛び出して現地で感じるものはたくさんあります。今は難しいかもしれませんが、出来ることから動いてみてください。

全日程スタッフが引率してプログラムを行いますので、海外が初めての人、ボランティア経験のない人も安心してください。

学びへのモチベーションもあがり、大学生活をも豊かにするワークキャンプに、少しの勇気を出して、参加してみませんか？

団体概要と主な活動内容

ICYE (International Cultural Youth Exchange) は1949年終戦直後、対立していたアメリカとドイツの間で、青年の交換事業・奉仕活動を通して互いの文化を学び、理解を深め合う事で平和を構築していくというビジョンのもと発足しました。今日まで70年以上続く歴史ある団体です。

主な事業は日本人のボランティア・インターンとしての海外派遣、海外からの受入を行い、派遣先はアジア・アフリカ・中南米・ヨーロッパの世界40カ国約900ヶ所、日本国内でも各地に受入プロジェクトを持ち、世界中のボランティア生とプロジェクト先を繋ぐ窓口の役目を果たしています。

国内では多くの学生ボランティアが関わり、来日生の日本語サポートやイベント運営（最近はおオンラインプログラムの構築など）にも携わっています。



メッセージ

派遣先の「温度」「匂い」「音」街を歩きながら、現地の人との会話、生活の中で感じる「雰囲気」「色」「質感」それらは異文化理解において重要な側面を持っています。どんなに巧みな言葉でも、現地を感じる、言葉にならないほどの多様で大きな世界を説明することはできません。皆さんの中の「挑戦したい！」気持ちを近い将来、その情熱を爆発させることができるよう、褪せさせることなく大切に温めておいて欲しいと思います。



団体概要と主な活動内容

世界90ヶ国3000の国際ボランティアを紹介🌈
グローバルな仲間とローカルな課題に取り組みます！

活動は身近な地域の課題から、世界各地の課題まで🌍

- * 生活様式の変化で、動植物が住めない日本の里山
- * 田んぼや畑の手入れができない人口2人の限界集落
- * 気候変動で減っているインドネシアのマングローブ林
- * 様々な事情で教育を受けられないタンザニアの子ども
- * 母国を逃れベルギーの施設で一時滞在する移民や難民

近くは韓国、台湾から、遠くは南アフリカ、ペルーまで世界各地から集まる仲間と共に活動します。話す言葉も習慣や文化も違う中、食事も基本は共同作業自炊です。

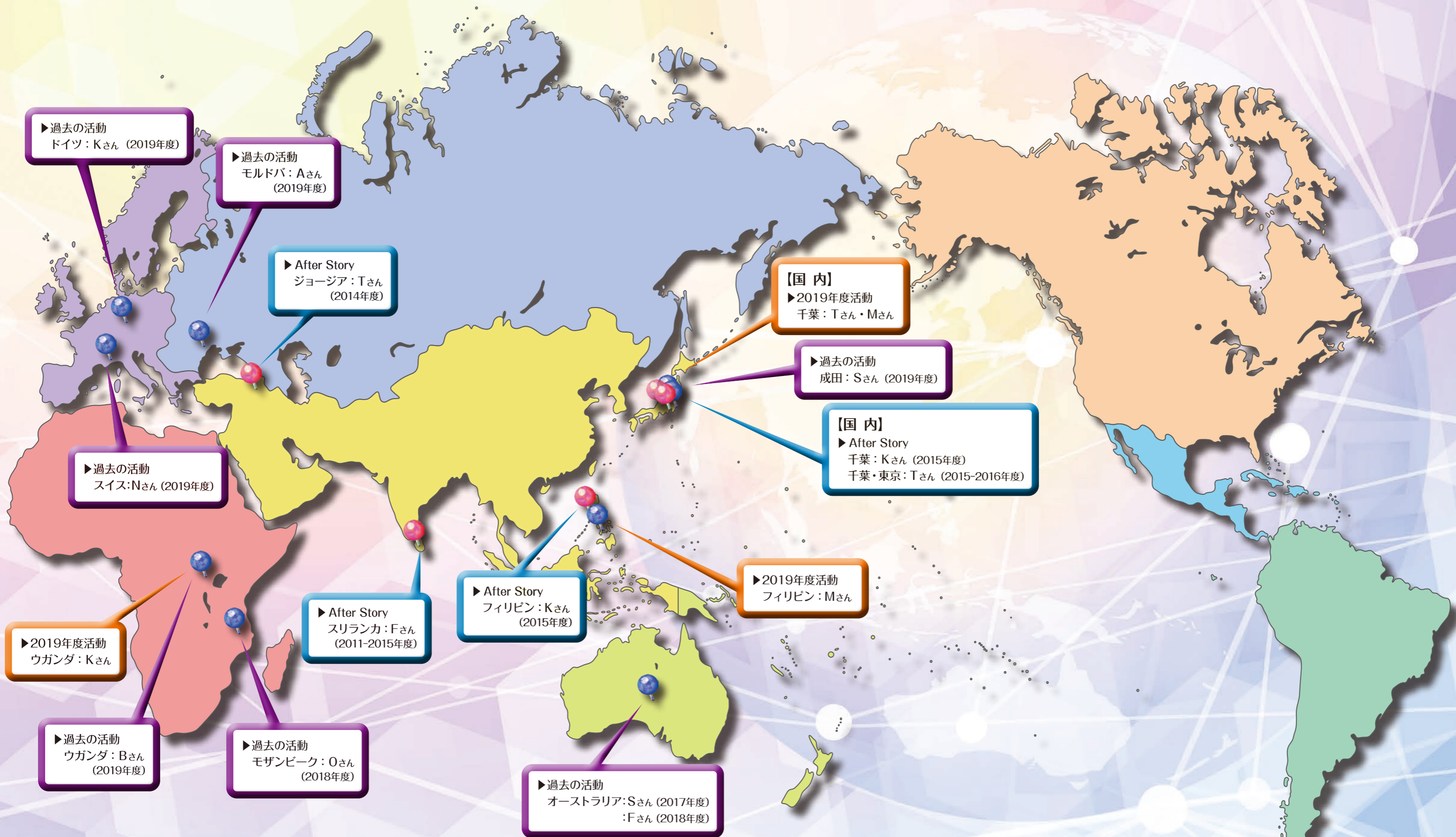


メッセージ

出身や肌の色、宗教、障がいなど、どんな違いも価値観も最初は「知らないしよく分からない」もの。国際ボランティア活動を通して、それらを「友達の個性、仲間の宗教」と捉えられるようになるだけで、このグローバルな世界を優しく生き抜く手助けになるかもしれません。

さらには、地球に暮らす生物や自然環境のことも考え生かされる世界。そんな「カラフルでヘルシーな世の中」を国際ボランティアを通して、一緒に作りませんか？

世界地図で見るグローバルボランティア



After story



看護師
Kさん

Profile

参加時期：2015年度・学部1年生

出身学部：看護学部

派遣国：フィリピン・日本

活動内容：JFC（ジャパニーズフィリピーノチルドレン・フィリピン人の母と日本人の父を持つ子どもの名称）とその母たちの理解、JFCによる劇団の日本公演のサポート（JFCあけぼの劇団DAWN・みんなの夢の音楽隊）

何かしてあげるより、思いを理解しようとする ことこそが活動意義だった

学生時代のボランティア体験談を聞かせてください！

私は、グローバルボランティア履修説明会に参加していたNPO団体「みんなの夢の音楽隊」代表の今川さんと、授業講師の佐々木先生に流されるままに、最初は希望として考えていなかったJFCを支援する国内活動をしました。活動当初、JFCとは何か、女性の自立やアイデンティティの問題について考えさせられました。

実際にフィリピンのマニラへも行き、ネズミが走る四畳半の家に2家族4人で暮らすJFCの実態や、父を知らない子どもたちが自分のツールを追い求めていることを知りました。

父を探すことも目的として来日するJFCによるミュージカル公演を千葉大学でも開催し、彼・彼女らの思いを人に伝え、未来に繋がられるよう活動しました。

どんな学生生活を送っていましたか？

体育会系の部活や文化系サークル、ボランティアやアルバイトなど様々な団体に所属していました。看護学部であったこともあり、人と関わる事が多く、社会人の現在よりも多くの人との繋がりができました。

グローバルボランティアでの経験は現在の自分へどのように繋がっていますか？

活動していた当時は、JFCがどのような背景を持つ子どもたちなのか、大学生の私が彼・彼女たちにしてあげられることはあるのかとても悩んでいました。しかし、今振り返ると、してあげるという上から目線の活動ではなく、ただ自分たちのツールは不明確であるという思いを理解してもらおう場所を彼女らは求めていたのではないかと考えています。そして、活動過程でJFCやその母たち、支援団体のことを調べたり、様々な団体の人やJFCと話し、理解するためのコミュニケーションをとったりしたこと自体がボランティア活動の意義だったのではないかと考えています。

現在、私が働く医療現場には、中国やフィリピンなどアジア、遠方だとエジプト出身の方々も入院されますが、言語や文化の壁があり、彼女達が安心して療養できる環境ではないと感じます。しかし、少しでも理解したい気持ちをもってコミュニケーションをとることが彼女達の安心感につながるのではないかと考えています。不安だという思いを彼女達自身が認識し、その思いを看護師として受け止めることで、次に繋ぐことができると信じて日々働いています。

After story



教員
Tさん

Profile

参加時期：2014年・大学3年
出身学部：教育学部
派遣国：ジョージア
活動内容：障害のある子どもたちとサマーキャンプ
(NICE)

違う言語、違う文化。 違いがあるからこそ一生懸命に

学生時代のボランティア体験談を聞かせてください！

ジョージアのボランティアに参加した理由は、「コーカサス地方」という未知の場所に行ってみたくと思ったことと、海外での子どもとの交流や特別支援教育・福祉に関心があったからです。

2年生のときには、フィリピンでストリートチルドレンと交流し、福祉施設を訪れるというスタディーツアーに参加しました。その他にも、学部生のときには成田空港でボランティア、文部科学省にインターンする経験もさせていただきました。また、院生のときにはデンマークのフォルケホイスコーレに1ヶ月間通っていました。

学内では、留学生のチューターや日本語教室の講師、佐々木先生のティーチングアシスタントとしてグローバルボランティアに関わらせていただく等、様々な活動をしていました。

どんな学生生活を送っていましたか？

私は教育学部の主専攻が養護教諭、副専攻が中学・高校の保健と特別支援でした。国際日本学も履修していたので、授業も実習も多く忙しい毎日でしたが、とても充実した学生生活でした。

興味をもったことには、学内外問わずたくさんチャレンジしたので、視野や交流の輪を広げることができました。

グローバルボランティアでの経験は現在の自分へどのように繋がっていますか？

私がジョージアでのボランティア活動中に一番苦労したことは、コミュニケーションです。ジョージアの公用語はジョージア語とロシア語で、英語はなかなか通じませんでした（英語が通じたのは中高生3人程度と海外の大学生）。しかし、そこで諦めることなく、様々な手段でコミュニケーションをとろうと努力しました。ボディランゲージを使う、オーバーリアクションをとる、表情を駆使する等、思いつく限りのことをしました。「言語が違うから」、「文化が違うから」と言ってしまうとそこで終わり。違いがあるからこそ、一生懸命伝えよう、理解しようと思えることができた貴重な経験でした。

現在、私は中学校の保健室で働いています。怪我や体調不良だけでなく、不登校傾向の生徒、友人関係や家庭の事情で悩みや問題を抱えた生徒も訪れます。ジョージアでの状況とは少し異なりますが、コミュニケーションの基本として共通して大切な「相手を理解すること」と「信頼関係づくり」をこれからも意識し、生徒を支援していきたいと思えます。

After story



新聞社経理職
Tさん

Profile

参加時期：2015-2016年度・学部1年-2年
出身学部：法政経学部
派遣国：日本（千葉・東京）
活動内容：フェアトレードの啓発・広報
(NPO法人ハロハロ/フェアトレードちば)

4年間かけて目線が自分本位から多角的なものへ

学生時代のボランティア体験談を聞かせてください！

海外でのワークキャンプとは異なり、私の活動は「フェアトレードの啓発」という目的はあるものの、何をやるのかは履修者の意思に任されていました。私は、年1回開かれるフェアトレードイベントに合わせ、千葉大学でのミニイベントを企画しました。コンセプトから大学内での打ち合わせ、資料まで自分の手づくり。今振り返ってみると、イベントの内容も資料も決して完成度が高いものではなかったと思いますが、最後までやり遂げることができたのは私にとって大きなことでした。その後の活動の繋がりも考えると、様々な活動に目を向けた大学時代の礎になった経験だったと思います。

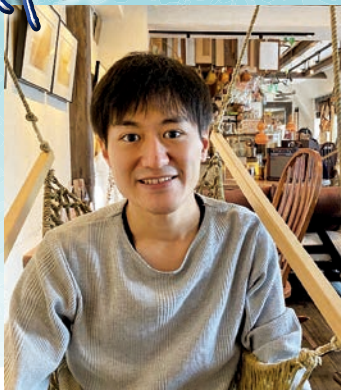
どんな学生生活を送っていましたか？

外に出て経験を積みたいという思いがあったため、まずはやってみる姿勢で過ごした学生生活でした。学外のプロジェクトに参加し、多様な価値観に触れることで、机上ではできない大学生ならではの学び方ができたと思います。

グローバルボランティアでの経験は現在の自分へどのように繋がっていますか？

大学4年間を通じてボランティア活動は続けていましたが、活動に対する目線は自分本位なものから多角的なものに変化していきました。継続的に伺っていた福島での活動では、報道だけでは分からない事実を目の当たりにし、物事の背景を考える習慣がつかえました。good!のモンゴルキャンプでは、自らを見つめ直したことで、相手の立場に立った考え方を心掛けることができています。自由な大学生活において、自らを成長させる手段は無限にあると思いますが、ボランティアの特徴は「裾野の広さ」と「不自由さ」にあると思います。比較的専門性を問わず、活躍の場は多い一方で、相手への配慮や集団行動による制限などの一見窮屈に見える瞬間も多々あります。私にとっては、その特徴が多くの経験と人生観の形成を両立する形だったからこそ、活動を続けることができました。複数の立場を考慮しながら進める現在の仕事は、ボランティアでの経験があったからこそできている仕事だと思っています。

After story



WEBサービス開発エンジニア
Fさん

Profile

参加時期：2011-2015年度・千葉大学学部2-4年生、
他大学大学院1年生
出身学部：工学部
派遣国：スリランカ 計4回
活動内容：現地ホームステイ形式での井戸掘り等インフラ
整備

卒業旅行で活動先の家族が「おかえり」

学生時代のボランティア体験談を聞かせてください！

大学2年の終わりに、NPO法人good!のスリランカでの2週間の井戸掘り活動に参加しました。初海外、初の本格的ボランティア活動として参加したその時間は自分の人生を最も変化させたきっかけでした。電気もガスも水道もない村で過ごす2週間。ご飯は手で食べ、お風呂は湖にどぼん。最初は日本人だけで行っていた井戸掘りに、鍬は任せると村のお母さん達も全面協力。ボランティアはただ仕事をする訳ではない、その地を知ること、その人達を知ること、人と人の関係を作っていく事も欠かせない大事な要素なんだなと気付かされました。

大自然での村人や参加者と共に働く時間、そうした非日常の時間が今の自分にとっての大きな宝となっています。

どんな学生生活を送っていましたか？

ボランティアに行くまでは飲食店でアルバイトし、授業に出て、学科の友達と家で遊ぶことが多かったです。教育系サークルやお笑いサークルなどに参加しており、授業、サークル、アルバイトというシンプルな日常でした。

グローバルボランティアでの経験は現在の自分へどのように繋がっていますか？

good!での体験を機に、ボランティアが生む、自分達や現地の人々の価値観の変化やそれをきっかけとした人の輪の広がり面白さに感銘を受け、good!のインターン生となり、総計4回スリランカの井戸掘りに参加しました。卒業旅行でホームステイした現地を回ったのですが、自分達が掘った井戸が村の飲料水として活用され、現地の家族に「おかえり」と喜ばれたことが何より嬉しかったです。

自分の価値観を大きく変えた、このスリランカでの非日常をより多くの人に経験してほしい、そんな思いから何人かの先生に頼み込み、授業の数分にお邪魔してもらいビラを配ったり説明会を開催し、最終的にはグローバルボランティアの1つとして追加して頂くことができました。

そこからボランティアに限らずNPOの支援をしたいと思うようになり、現在は副職として、プロボノとNPOを繋ぐコミュニティを作り、NPOを裏から支えようと取り組んでいます。

座談会開催！



まさや

法政経学部3年生
難民支援ボランティア

あいみ

国際教養学部4年生
難民支援ボランティア

みき

国際教養学部3年生
フェアトレードちば

まーち

教育学部3年生
難民支援ボランティア

こーだい

国際教養学部3年生
フィリピン・インドネシア

「先輩がホッネを語る！」
グローバルボランティア座談会を開催いたしました。

座談会詳細は以下のQRコードからご覧ください！



自分が経験したボランティアとその理由（座談会前半）

コロナによって変わったグローバルボランティア
（座談会後半）



座談会 2020（全体）



自分が経験したボランティアとその理由



まいち

みなさんが今まで経験したグローバルボランティア（以下、グロボラ）と選んだ理由を教えてください！



まさや

僕は1年生の頃に**難民支援ボランティア**に参加しました。内容は映画を通して啓発活動や、大学祭にてロヒンギャ民族伝統の布を使ったハンディクラフトを体験してもらうといったものでした。大学生になり、今まで学習したことを社会で試したい・活かしたいという思いからボランティアを始めました。特段難民に興味があった訳ではなかったのですが、活動を通して今まで気づけなかったり、気づかぬフリをしていた目の前の問題に向き合うようになりました。それ以外にも、授業やニュースで見たものを身近でもっと知りたいと思いベトナムで日本語学習支援やインドで女性自立支援ボランティアに参加しました。



あいみ

私は、大学1年生の時に**難民支援ボランティア**に参加しました。このボランティアは、大学内で難民に関する映画を上映したり、大学祭で難民の故郷の味を再現して販売するという内容でした。参加した理由としては、単純に「難民」に興味があったからです。耳にしたことはあっても、どういった存在なのか、どのような問題が彼らを取り巻いているのかは全く知りませんでした。気づけば、その後3年もその活動を続けていました。他には、2年生の時に留学していた**タイのスラムでもボランティア活動**をしてました。これも、タイで生活しても見えてこない社会課題について、知りたいと思ったのがきっかけです。



私も大学2年生で**難民支援ボランティア**を経験しました。加えて自身が教育学部ということもあり、大学1年生の夏に**タイ・チェンマイ**で中高生に向けた**日本語指導と文化交流**、2年生の夏には**南アフリカ共和国**やその中にある**王国の学校**を訪問し、**授業の見学やお手伝い**をしてきました。

タイでは日本語の支援を通してタイの文化に触れるだけでなく、日本の文化を見つめ直すきっかけにもなりました。また、アフリカの国々には日本の小学校とアフリカの小学校の違いを現場に立って感じたいという想いで訪問しました。この時の経験は、今年の実習で国際理解や日本の伝統文化理解を目的とした授業づくりにも活かすことができました。



まーち



こーだい

私は、大学一年の時にフィリピンのNPOにボランティアとして、一か月半参加しました。現地の**スラムに住む子どもたちの奨学金支援事業**を軸としたNPOで、日々子どもたちの様子を見たり、子どもたちのお家に訪問する業務のボランティアをしていました。高校時代に訪れた現地の子ども達の現状を変える方法を考えていたと思い大学に入り、今回はその「ぼやっ」とした課題感をより明確なものにするために活動に参加しました。現地での活動から、自分のやりたいことが少し明確化され、その後の**インドネシアでのグローバルイギリスでの長期留学**など次のステップにも繋がっていきました。



みき

私は**フェアトレードちば**に参加しました。主な活動は、NPO法人「フェアトレードちば」でのイベントの企画運営や大学での活動を通じた、フェアトレードの啓発活動やコミュニティづくりです。他にも**団体のフィリピン事業所の訪問**や、**大学祭での出店**なども行いました。参加したきっかけは、グローバルのガイダンスでフェアトレードという言葉を知り、自分の目で見て学びたいと思ったからです。実際に、現場でしか得られない経験や共に活動する方々に多くの刺激を受けました。一方で「伝える」ことの難しさなど多くの課題も感じました。それらの経験から新たな関心が深まり、その後の活動にも繋がりました。



コロナによって変わったグローバルボランティア



まーち

2020年度は、COVID-19の影響を受け思うように海外でボランティア活動ができなかったという方も多いのでは？この期間、どのようにグローバルと関わってきましたか？



まーち

@まさや は、今年度も難民についての啓発活動をしているんですね。



まさや

僕は「映像で考える移民・難民」というプログラム作りに関わっています。今年はコロナ禍で海外に行って直接見て・感じる事が難しくなっています。直接行くことができなくても、映像を通して日本中・世界中の出来事に注目することはできます！

今自分がやってみたいことやできることを、映像を見て十人十色の意見や価値観を共有しあってじっくり深く考えていける機会になればと思っています。一人でも多くの方が身近な問題、目の前の課題に興味をもつ・関わるというステップを踏みだしてくれたらいいなと思います！



まーち

@あいみ は、ムスリム女性達と協力してマップづくりをしてるって聞きました！



あいみ

私は、市川市行徳地区を対象とした「コミュニティマップづくり」というプログラムに関わっています。日本には多くの外国人が暮らしていますが、意外と彼らがどんな生活をしているのかは知らないですよ？今回は、行徳地区に住んでいるムスリム女性を対象にオンラインインタビューをし、彼女たちがどのような場所で買い物をするのか、どんなレストランがおすすめのかなどを聞いて、独自のマップを作ります。オンラインが身近になった今だからこそ成り立つプログラムだと思いました。今後こうしたボランティアが増えれば、もっと多くの方が気軽に経験できるようになるんじゃないかなと思いました。



まーち

@みき は、フェアトレードちばの活動を完全オンライン化して続けているそうですね！





みさ

私がアシスタントを担当している「フェアトレードちば」は、例年対面で行っていたミーティングやインタビュー、イベントなどを全てオンラインで行なっています。また今年度は現地の生産者と繋がるバーチャルスタディツアーなど、オンラインならではの新しい試みも予定しています。コロナで直接会うことはできませんが、この機会によって新しいつながり方や活動の仕方が可能になり、より多くの人に活動を広げるチャンスにもなったと考えることもできます。海外だからできること・日本だからできることそれぞれの強みを生かして、今後も活動の幅を広げていければと思います。



こーだい

僕が担当している「多文化フリースクールちば」では、通常外国につながる子どもたちの日本語や教科サポートをし、翌年の高校進学を目指した活動をしています。今年度のグローバルでは、コロナの影響等もありオンラインでの学習サポートを目的とした活動を予定しています。具体的には、子どもたちの苦手分野である数学などは大学生の生徒たちが教えやすい部分であるため、放課後に復習として1 to 1でサポートしていく予定です。今年度オンラインを整備することで、今後は大学生によるオンラインサポートを様々な地域にいる子どもたちに広げていければと思います。



まーち

@こーだい も、外国にルーツを持つ子どもの学習支援にオンラインを導入したんですね。



まーち

みなさん、コロナ禍で海外に行くことができない状況の中でもグローバルな視野をもって国内で活動されているんですね！ボランティアの形は変わっても、身近になったオンラインを活かしてむしろ国内から世界との結びつきを強めているような印象を受けました。個人の経験に留まるのではなく、多くの人を巻き込めるのもオンラインならではの魅力だと思います。

本日はありがとうございました！



編集後記

誰も予測出来なかった新型コロナウイルスによって世界中が大きく変化した一年。一人ひとりが国内外様々な場所で活動するグローバルボランティアも模索した1年でした。

当たり前に行っていたことができなくなり、授業も活動も全てオンラインになりました。

こうした中で今年度の報告書は前年度までと大きく変わりました。いつか自由に活動できるようになったとき、色々な場所で多くのことを経験してほしい、そんな願いを込めて作りました。

企画、編集に携わった皆さん、お疲れさまでした。

最後に、プログラムの企画から実施まで大変な中でも、いつも学生に寄り添い、温かく見守ってくださった佐々木綾子先生、本当にありがとうございました。





**CHIBA
UNIVERSITY**